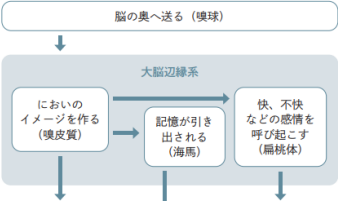
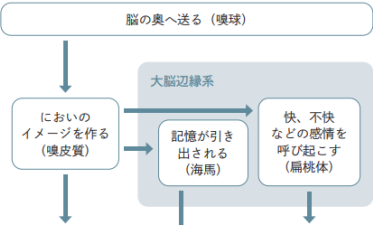
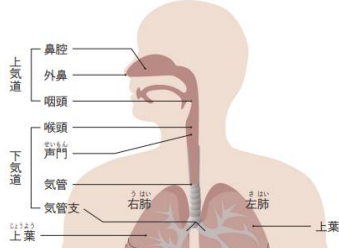
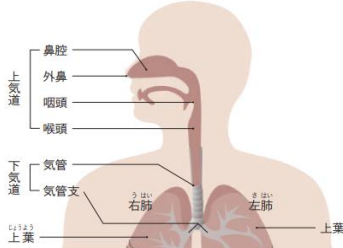


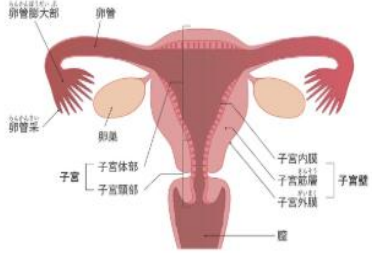
AEAJ認定 アロマセラピーインストラクター 公式テキスト(2024年10月改訂版)重版に伴う修正について

本書の5刷(2026年9月発行)について以下の通り変更しております。

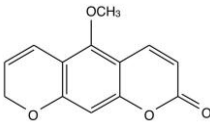
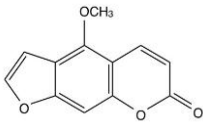
章	ページ	該当箇所	修正前	修正後
1	28	マルグリット・モーリー	『Le capital ‘Jeunesse’ (最も大切なもの…若さ)』を発刊	『Le capital ‘Jeunesse’ (最も大切なもの…若さ)』を 発行
3	54	圧搾法 1行目	レモンやスイートオレンジ	レモンやグレープフルーツ
3	92	ベチバー構成成分の例②クシノ	凡例の色 フェノール類 (青色)	凡例の色 アルコール類 (オレンジ色)
3	111 112	不飽和脂肪酸	単価不飽和脂肪酸	一価 不飽和脂肪酸
3	122	シアバター植物油データ【抽出	低温圧搾法	圧搾法
4	143	においの伝達経路 大脳辺縁系の囲み部分		P.143の本文に合わせて修正 
5	170	呼吸器系の器官		喉頭を 上気道 に分類 「声門」は喉頭に含まれるため削除 
5	172	呼吸のメカニズム	「喉頭」は下気道に分類	「喉頭」は 上気道 に分類
5	171	研究紹介の出典論文	出典：枝伸彦 他,(2019) エッセンシャルオイルによる香りが口腔内免疫機能に及ぼす影響についての生理心理学的研究. アロマセラピー学雑誌20 (3):28-37.	出典：伊藤 晃, 山村 千絵 (2010) アロマオイルのニオイ刺激による唾液分泌促進効果—ブラックペッパーオイルとカルダモンオイルの場合—. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌 14(2):134–144.
5	175 177 178	内分泌系	黄体化ホルモン (LH)	黄体 形成 ホルモン (LH)

本書の4刷(2026年2月発行)について以下の通り変更しております。

章	ページ	該当箇所	修正前	修正後
1	15	左段 3、4行目 『ヒポクラテス全集』	彼が記した	彼の言葉を集めた
1	22	右段 7行目 二名法	属性	属名
2	40-42	仲間どうしの植物の特徴を知る 「植物名」	バラ科:ローズ(アブソリュート)、ローズオットー カンラン科:フランキンセンス、ミルラ モクセイ科:ジャスミン(アブソリュート) エゴノキ科:ベンゾイン(レジノイド)	バラ科:キャベジローズ、ダマスクローズ カンラン科:ニューコウジュ、モツヤクノキ モクセイ科:ロイヤルジャスミン エゴノキ科:アンソクコウノキ
3	54	圧搾法	圧搾法の精油は劣化しやすいことも特徴です。	ほかの抽出法で得られた精油に比べ光毒性を引き起こす成分が含まれやすいことも特徴です。
3	74	Column バニリン	(注:調香にはほとんど使用されない。)	削除
3	75	エステル類 右段	水に溶けにくく、	削除 ■変更の理由 エステル類すべてが水に溶けにくいわけではなく誤解を招く表現であるため
3	75	ケイ皮酸エステル類	—	【芳香族エステル類】を追記
3	76	オキサイド類	1,8-シオネール	1,8-シネオール
3	87	ジュニパーベリー 香調	スパイシーノート	ウッディノート
3	89	ティートリー 香調	ハーバル・アロマティックノート	グリーンノート
3	90	ネロリ 構成成分の例 ⑤α-テルピネオール	凡例の色 オキサイド類(ピンク色)	凡例の色アルコール類(オレンジ色)
3	101	メイ Chan 特徴的な成分	グラニアル、ネラール	シトラール
3	111	パルミトレイン酸	皮膚	皮脂
3	116	アプリコットカーネル油	植物油について「酸化しやすいのが特徴」 植物油の特徴「酸化しにくさ★」	植物油について「酸化しにくいのが特徴」 植物油の特徴「酸化しにくさ★★」
4	143	右段 7行目	大脳辺縁系は大脳皮質よりも古い皮質で、	大脳辺縁系は大脳新皮質よりも古い皮質で、
4	153	下垂体	内分泌器官であり、	内分泌器腺であり、
5	171	喉頭の説明	下気道に分類	上気道に分類
5	175	主な内分泌腺の人体図	—	臓器の位置を修正

5	177	バソプレシン(ADH)	過剰に分泌されるとメラニン細胞を刺激し、皮膚の色素沈着を引き起こします。	削除
5	184	子宮のイラスト	卵管采と卵巣が密着	卵管采と卵巣が密着しないように修正 
5	185	卵巣周期 ②排卵期	黄体からプロゲステロン（黄体ホルモン）が分泌され、	下垂体前葉から黄体化ホルモンが分泌され、
5	193	主な内分泌腺 4行目	副腎皮質ホルモン3種、副腎髄質ホルモン2種	副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン
5	195	免疫の3段階	順番に見ていきましょう。	見ていきましょう。
5	197	血球の種類と主な免疫細胞(表)	樹状細胞が顆粒球から分化	樹状細胞が単球から分化
5	198	食細胞とは1行目	殺菌・浄化	殺菌・除去
5	205	循環器系(血管系とリンパ系)本文 5行目	リンパ液が循環する	リンパ液が流れる
5	213	脾臓	—	下記の門脈の説明を追加 ※門脈・・・消化器系で吸収された栄養素などを肝臓に運ぶ血管。心臓に血液を戻す通常の静脈とは働きが異なる。
6	243	骨髄	血液を作ります。	血球を作ります。
6	249	関節の基本構造	—	関節包のさす位置を変更繊維膜と滑膜を追加 
6	252	随意筋と不随意筋 本文4行目	骨格筋のほか、舌筋、横隔膜筋、外肛門括約筋などがあります。	横隔膜などの骨格筋のほか、舌筋、外肛門括約筋などがあります。
6	261	大腿・下腿の筋【前面】の図	大内転筋	削除
6	247 250 261	橈骨の説明 鞍関節の説明 下腿の筋の説明	拇指	母指

本書の3刷(2025年2月発行)について以下の通り変更しております。

章	ページ	該当箇所	修正前	修正後
1	13	中国 上から3行目	漢方医学	中医学
3	67	主なテルペン化合物 表の4行目 ジテルペンの主な分子式	C20H36	C20H 3 2
3	71	右段1行目	溶ける	溶けやすい
3	76	ラクトン類ベルガプテンの構造式		
3	98	ローズマリー 構成成分の例 ⑦ベルベノンのグラフの色	薄茶色(炭化水素類)	紫色(ケトン類)
3	100	パルマローザ 注意事項	皮膚刺激マークあり	皮膚刺激マークなし ■変更の理由 皮膚感作性に関するデータに基づき「皮膚刺激あり」としておりましたが、 AEAJが推奨する使用方法の範囲では皮膚感作性のリスクは少ないため、 皮膚刺激マークを削除いたしました。
5	167	胸式呼吸の図 (左)	内肋間筋	外肋間筋
5	167	胸式呼吸の図 (右)	外肋間筋	内肋間筋
5	167	胸式呼吸の図 (左右)	内肋間筋と外肋間筋の斜線の区別なし	内肋間筋と外肋間筋の斜線を色分けして区別

※上記の修正箇所について、試験問題には影響いたしません。

お問い合わせ:aeaj-pro@aromakankyo.or.jp